※令和４年度以降入学生用

学校番号	２１１

令和８年度　地歴公民科

教科	地理歴史	科目	日本史探究	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	日本史探究『詳説日本史』						
副教材等	新詳日本史						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

「歴史総合」の学習によって身に付けた資質・能力を基に、我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するともに、事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを考察し、よりよい社会の実現を視野に、歴史的経緯を踏まえて、現代の日本の課題を探究する科目です。

２　学習の到達目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を行う。（学びに向かう力、人間性等）資料集及びパワーポイントにおける図版等を活用し歴史上の出来事の時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目させる。（思考力・判断力・表現力等）広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質を育成することをめざします。（知識及び技能）

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について，地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	1 織豊政権	①大航海時代と呼ばれる世界史的背景を踏まえて、ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察する。 ②織田信長の統一事業、豊臣秀吉の天下統一、秀吉の朝鮮侵略と続く織豊政権の特色と意義、その後の時代への影響について理解する。	a：村落や都市の支配の変化、アジア各地やヨーロッパ諸国との交流に関する諸資料から情報を読み取り、織豊政権の特色や貿易・対外関係について理解している。 b:織豊政権の諸政策の目的や、ヨーロッパ諸国の進出がアジアに与えた影響などについて多面的・多角的に考察し、表現している。 c:時代の転換に着目して、中世から近世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現しようとしている。	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	発問評価 授業態度
1	2 桃山文化	①新興の大名や都市の豪商の精神を反映した桃山文化について、町衆の生活にも着目し、時代的背景を踏まえて考察する。 ②中世から近世への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。	a:桃山文化が幅広い国際性をもちつつ、生活文化の中にとけ込んでいったことについて、諸資料から情報を読み取り、理解している。b:豊臣政権による朝鮮出兵やヨーロッパ勢力との接触による南蛮文化の形成について、多面的・多角的に考察し、表現している。c:桃山文化の特色について、中世文化の特色との比較を通じて、その類似と差異を見出そうとしている。	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	発問評価 授業態度

※令和４年度以降入学生用

1	生類憐みの令からみる江戸時代の社会の変化	①生類憐みの令として知られる一連の法令から、情報を収集して読み取る技能を身につける。 ②資料から適切に読み取った情報をもとに、近世の特色についての仮説を表現して展望する。	a:法令の内容を適切に読み取り、生類憐みの令が出された当時の社会の雰囲気について、文芸作品との関わりも踏まえて理解している。b:生類憐みの令が出された時期の諸政策や国際的な環境の変化をもとに、江戸時代の特徴を多面的・多角的に考察し、仮説を表現している。c:戦国時代までの社会の在りかたと比較し、近世がどのような社会に変わったのかについて課題を主体的に追究しようとしている。	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	発問評価 授業態度
1	1 幕藩体制の成立	①江戸幕府の成立による幕藩体制の確立過程を理解する。 ②江戸幕府の鎖国政策について、単なる対外貿易の遮断ではないことを理解し、鎖国後の貿易関係の在り方も含めてその影響と歴史的意義について考察する。	a:織豊政権との類似と相違、アジアの国際情勢の変化などに着目して、諸資料をもとに江戸幕府の法や制度の確立や対外政策の推移について理解している。b:織豊政権と幕府の支配の構造の相違点や、江戸幕府による貿易統制の意義について多面的・多角的に考察し、表現している。c:幕藩体制が確立する過程における様々な画期について考察し、主体的に追究しようとしている。	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	発問評価 授業態度
1	2 幕藩社会の	①幕藩体制の確立期の経済・社会を、兵農分離や村落・都市支配などの観点から、多面的・多角的に考察する。 ②被支配身分の特質や、	a:幕藩体制下の支配体制や封建的身分秩序の形成に関する諸資料から適切に情報を読み取り、江戸時代の社会の構造を理解している。b:新たな支	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	発問評価 授業態度

※令和４年度以降入学生用

	構造	周縁部分に生きる人々の社会的役割について理解する。	配制度のもとにおける人々の生活の具体相について、根拠を示して表現している。c:織豊政権下における社会の仕組みと幕藩体制下とを比較・考察し、そのつながりを見出そうとしている。			
1	3 幕政の安定	①17世紀後半から18世紀前半までの江戸幕府の安定期について、その平和と秩序の確立の視点で考察する。 ②諸藩における政治の安定化や刷新について、その特色を理解する。	a:諸資料から情報を適切に読み取り、文治政治への転換から元禄時代・正徳期に至る政治の推移について理解している。b:戦乱のない時代が創出されたことの意義を踏まえ、人々の生活や意識がどのように変化したのかを多面的・多角的に考察し、表現している。c:幕藩体制が安定していく中で、江戸幕府の諸政策がもたらした人々の暮らしへの影響について、主体的に追究しようとしている。	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	発問評価 授業態度
1	4 経済の発展	①幕藩体制の安定期の農業・商工業などの発展について、諸産業相互の関係やその社会的役割を踏まえて考察する。 ②全国市場の確立や都市の発達で商品流通が拡大し、各地で風土に応じた特産物が生まれたことを理解する。	a:陸上・水上における交通や流通の発達と、農業・工業・商業などの発達との関連を多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現している。b:近世前期における交通・流通の発達や産業の発達などの様相について、その推移や展開を明らかにしようとしている。c:近世前期における交通・流通の発達や産業の発達などの様相について、その推移や展開を明らかにしようとしている。	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	発問評価 授業態度

※令和４年度以降入学生用

1	5 元 禄 文 化	①経済の発展と関連して町人文化が形成されたことについて、町人の社会的台頭や幕藩体制の安定と関連させて理解する。 ②儒学の特色を理解し、その発達が他の学問に与えた影響を考察する。	a:都市の発達と文化の担い手との関係などに着目して、17世紀の文化の特徴などについて、諸資料から情報を読み取る技能を身につけている。b:近世前期における幕府の統治政策や藩財政の推移と文化との関係について、多面的・多角的に考察し、表現している。c:幕藩体制が安定していく中での経済の動向と上方の豪商との関係性を踏まえ、17世紀の文化の特色を明らかにしようとしている。	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	発問評価 授業態度
2	1 幕 政 の 改 革	①農村や都市の変容により幕藩体制が動揺する中、幕府や諸藩がおこなった諸改革の意義とその影響を考察する。 ②幕府や藩の支配に対しておこなわれた百姓一揆や、都市の打ちこわしの実態について理解する。	a：幕府・諸藩の経済的窮乏、百姓一揆・打ちこわしの頻発などに関する諸資料から情報を読み取り、享保の改革や田沼時代の諸政策の意義について理解している。b:商品作物の栽培や貨幣経済の浸透により、米作を基盤とする幕藩体制が動揺する過程を踏まえ、飢饉や一揆の発生が幕藩体制に与えた影響を考察し、表現している。c:幕藩体制下の社会・経済の仕組みの変化や、幕府・諸藩の政策の変化について課題を見出し、主体的に追究しようとしている。	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	発問評価 授業態度
2	2 宝 暦 ・天 明 期 の 文	①江戸中期に確立した洋学や国学、新たなかたちで展開する文学・芸能・美術について、社会の変容にともなう幕藩体制の動揺と関連づけて考察する。 ②幕府や藩による武士の	a:幕藩体制下の社会の変容に着目して、宝暦・天明期こおける新たな学問の確立、各地に設立された教育機関の展開を理解している。 b:幕藩体制の動揺と文化の展開との関連性について、諸資	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	発問評価 授業態度

※令和４年度以降入学生用

	化	教育に加え、民間でも私塾や寺子屋が開かれた背景について理解する。	料から読み取れる情報をもとに多面的・多角的に考察し、表現している。c:政治・経済と文化の関係に着目して、宝暦・天明期における文化の展開について課題を見出し、主体的に追究しようとしている。			
2	3 幕府の衰退と近代への道	①欧米諸国のアジア進出による国際情勢の変化やそれに対する幕政の対処を踏まえて幕府が衰退していく過程を理解する。 ②近代化の基盤の形成について、産業経済面や軍事面などに着目して、雄藩の浮上という地方からの視点から考察する。	a:列強の接近にともなう事件や幕政改革に関する諸資料から情報を読み取り、幕府権力が衰退する一方で工場制手工業など近代の萌芽がみられ、雄藩が出現する過程を理解している。b:国際情勢の変化と影響などに着目して、幕府政治の動揺と諸藩の動向について多面的・多角的に考察し、根拠を明らかにして表現している。　c:飢饉や一揆への対応、外交政策の転換などについて、幕府や諸藩の課題を見出し、主体的に追究しようとしている。	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	発問評価 授業態度
2	4 化政文化	①化政文化について、学問・思想・教育・文学・美術・生活文化の新たな展開に着目し、江戸と地方の文化的交流にも留意して考察する。 ②都市の民衆を中心とする芸能などが盛んになったことを理解する。	a：近世の前半と後半を比較し、文化への影響力をもつ地域や担い手の変化をもたらした原因について多面的・多角的に考察し、表現している。 b:近世後期に形成された文化と近代以降の文化との関係性について、学問・教育・出版文化や庶民文化を事例としてつながりを見出そうとしている。	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	発問評価 授業態度

※令和４年度以降入学生用

2	1 開国と幕末の動乱	①国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して、日本の開国を社会・経済面での変化と関わらせて考察する。 ②江戸幕府の威信低下と雄藩の台頭について、政治情勢の変化と列強の動向を関連させて理解する。	a:欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化について諸資料から適切に情報を読み取り、江戸幕府が対外政策を転換して開国に至る経緯などを理解している。b:日本が直面していた国内外における諸課題を踏まえ、政治や経済などの諸側面の変化などを多面的・多角的に考察し、表現している。c:日本の開国に関わる諸事象を国際的な視点から考察し、開国のもたらす政治的・経済的・社会的影響について主体的に追究しようとしている。	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	発問評価 授業態度
2	2 幕府の滅亡と新政府の発足	①幕末の動乱における天皇を中心とする統一国家構想の芽生えから幕府の滅亡、旧幕勢力の一掃に至るまでの経過を理解する。 ②近世から近代への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。	a:政治・経済の変化と思想への影響などに着目して、諸資料から適切に情報を読み取り、幕藩体制の崩壊と新政権の成立について理解している。b:日本がどのような契機によって近代的な社会の形成に向かっていくことになるのか、近代の特色を探究するための時代を通観する問いを表現している。c:幕末の政治動乱の過程を多角的に考察することを通じて、近代の学習へのつながりを主体的に見出そうとしている。	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	発問評価 授業態度
2	① 五箇条の誓文と	①五箇条の誓文のあつかわれ方について、諸資料から情報を収集して読み取る技能を身につける。 ②諸資料から適切に読み取った情報をもとに、近代・現代の歴史について仮説を表現して展望す	a:五箇条の誓文の内容を踏まえたうえで、自由民権運動や初期議会、戦時下の学校教育や占領下の日本における同資料のあつかわれ方を読み取っている。 b:五箇条の誓文のあつかわれ方から、近代・現代	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	発問評価 授業態度

※令和４年度以降入学生用

	国是	る。	の歴史のどのような流れを読み取ることができるかを考察し、仮説を表現している。c:時代を通観する問いを踏まえ、五箇条の誓文のあつかわれ方を通してみえる日本の近代・現代の歴史の展開について、展望しようとしている。			
2	②貿易の変遷からみる日本の近代・現代	①日本の近代・現代における輸出入品の推移から、情報を収集して読み取る技能を身につける。 ②諸資料から適切に読み取った情報をもとに、近現代の日本の産業の在り方や課題について仮説を表現して展望する。	a:開国以降の日本の貿易において、輸出産業の振興と輸入品の国産化をはかる経済政策がとられた背景を諸資料から読み取っている。 b:近代・現代における各時期の貿易の変遷から、その課題が何であったかを考察し、日本の産業の変化について仮説を表現している。c:時代を通観する問いを踏まえ、近現代における日本の産業が抱える課題について、主体的に追究しようとしている。	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	発問評価 授業態度
2	1明治維新と富国強兵	①明治新政府の制度改革や富国強兵・殖産興業政策に着目して、政治的変革と国家的統一過程を理解する。 ②欧米文化・思想の導入と近代化政策に対する士族反乱・農民一揆の発生と、言論闘争への転換を理解する。 ③明治初期の対外政策について、欧米への対応とアジアに対する外交政策の違いについて考察する。	a:明治政府による中央集権化の諸政策と士族反乱の終焉、欧米・アジア諸地域との国際関係、文明開化の風潮について、諸資料から情報を読み取って理解している。b:諸制度の改革が地域社会にもたらした変化や諸外国と結んだ条約の相互比較、欧米の思想・文化の影響などを多面的・多角的に考察し、表現している。c:明治維新や文明開化の風潮が展開する中で生じた様々な課題や、歴史の展開における画期についての課題を見出	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	発問評価 授業態度

※令和４年度以降入学生用

			し、主体的に追究しようとしている。			
2	2 立憲国家の成立	①政府の強力な中央集権体制への志向のもとで、自由民権運動の始まりから立憲国家の成立に至る間、近代国家の基盤が形成されていく過程を考察する。 ②大日本帝国憲法の性格について具体的・多角的に理解する。	a:諸資料から読み取れる地域社会の変化に着目して、自由民権運動の展開や大日本帝国憲法の制定と議会開設に至る過程を理解している。b:国内体制を欧米の水準に合わせることが改革の前提にあったことを踏まえ、社会構造の変化や地方自治の展開について多面的・多角的に考察し、表現している。c:自由民権運動の展開過程を考察したうえで、日本における立憲政治の導入がもたらした課題を主体的に追究しようとしている。	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	発問評価 授業態度
2	1 日清・日露戦争と国際関係	①東アジアをめぐる国際環境が変容する中、国家的課題であった不平等条約の改正交渉が進展した過程や、朝鮮問題から日清戦争に至る経緯について理解する。 ②開戦に至る国際関係や、日露戦争の経過、戦後の日本の国際的地位の変化と植民地支配の推進について、諸外国の動向と関連づけて考察する。	a:日清・日露戦争の前後における条約改正の完成、韓国併合や満洲への勢力拡張などについて諸資料から情報を読み取り、この時期の戦争の様相や背景、日本の国際的地位の変化を理解している。b:議会が戦争を支持する一方で反戦論が存在したこと、戦争が国民としての自覚や意識の高まりをもたらしたことなどについて多面的・多角的に考察し、根拠を明らかにして表現している。c:対外的な戦争が日本の近代化の過程の中でもった意味を考察し、主体的に追究しようとしている。	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	発問評価 授業態度

※令和４年度以降入学生用

2	2 第一次世界大戦と日本	①第一次世界大戦前後の政治の動向および対外政策の推移について、政党政治の発展や日本の中国進出の状況を踏まえて理解する。 ②第一次世界大戦が日本の社会経済や政治に及ぼした影響について、欧米・アジア経済との関係や政党内閣の成立などと関連させて考察する。	a:第一次世界大戦が日本に及ぼした影響に着目して、大戦後の国際的な協調体制における日本の立場や対外政策の変化について諸資料から適切に情報を読み取り、理解している。b:大戦中の日本の動向を踏まえ、中国や朝鮮をはじめとするアジア近隣諸国民が日本の対外姿勢をどのように受け止めたのかを多面的・多角的に考察し、表現している。c:対外戦争がもたらした国内的・国際的な変化を踏まえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見出そうとしている。	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	発問評価 授業態度
2	3 ワシントン体制	①ワシントン体制に至る国際的協調体制の進展など国際環境の推移を、日本の立場に着目して理解する。 ②民主主義的風潮による社会運動の動向を理解するとともに、普選運動など政党政治の発展から二大政党による政党内閣制成立に至るまでの意義について考察する。	a:ヴェルサイユ体制からワシントン体制に至る経過や中国・朝鮮における民族運動の高揚に着目し、国内で様々な社会運動が起こった背景と政党政治の成立について理解している。 b:大戦後に国民の権利の拡大がもたらされたことを踏まえ、国際的な反戦意識や国際的な民族運動の高揚について多面的・多角的に考察し、表現している。c:東アジア・太平洋地域における国際協調体制の特質を考察することを通じて、当時の日本外交に与えた影響やその課題を主体的に追究しようとしている。	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	発問評価 授業態度

※令和４年度以降入学生用

2	1 近代産業の発展	①日清・日露戦争前後にかけて資本主義国家の基礎が確立された過程を、産業革命や近代産業の発展に着目して理解する。 ②近代産業の発展にともなう社会問題（労働問題・公害問題）の発生と政府の対応について考察する。	a：産業の発達の背景と影響などに着目し、諸資料から産業革命の展開について適切に情報を読み取り、地域社会における労働や生活の変化が社会問題を生み出したことを理解している。b：地域社会の変化などを踏まえて産業全般の変化がもたらされたことや、労働問題や公害問題の発生について多面的・多角的に考察し、表現している。c：産業の発展とそれによる社会問題への対応について課題を見出し、自ら主体的に追究しようとしている。	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	発問評価 授業態度
2	2 近代文化の発達	①伝統的な文化のうえに欧米文化を摂取するなど二元性をもって成立した近代文化の特色について、政治・経済・外交などの視点をもって考察する。 ②義務教育の普及・定着とともに、国家主義的教育が浸透していくことを理解する。	a：国家主義的な思想の形成、実証的な学問研究、欧米の科学技術の導入、教育の普及・拡充について、諸資料から情報を読み取る技能を身につけている。 b：学校教育の必要性の説かれ方や、学校教育の内容と地域社会の変容、国民意識との関係について、近代文化の形成を踏まえて考察し、表現している。c：明治期の文化に関わる政府と国民の動向を考察することを通じて、明治文化の特色を主体的に追究しようとしている。	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	発問評価 授業態度
2	3 市民生活の変	①労働者や都市中間層の拡大による大衆社会の基盤の成立に着目し、都市化や市民生活の変化を踏まえて、大衆文化の特色について考察する。 ②大衆文化の前提となる	a：学問・芸術・出版・マスメディアの発展について諸資料から情報を読み取り、欧米文化との関わりとその浸透度、社会風潮との関連を理解している。b：都市の発達、鉄道・	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	発問評価 授業態度

※令和４年度以降入学生用

	容と大衆文化	教育の普及・発展、マスメディアの発達について理解する。	駅の設置やその影響、工場の増加や生活の変化など、地域社会の変容について多面的・多角的に考察し、表現している。c:マスメディアや出版の発達によって誕生した大衆社会が生み出す課題について、自ら主体的に追究しようとしている。			
3	1 恐慌の時代	①戦後恐慌から昭和恐慌に至る国内経済の動揺について、国内・国外の経済状況と対策に着目して理解する。 ②社会主義運動の高揚と国家主義の台頭による軍部の政治的進出を踏まえて、協調外交が挫折していく過程を考察する。	a:国際社会やアジア近隣諸国との関係に着目して、日本で連続した恐慌と政府の対応などに関わる諸資料から情報を読み取り、恐慌と国際関係について理解している。b:ワシントン体制下の協調外交が、中国における民族運動の進展や日本の経済の動向によって次第に緊張が高まったことについて考察し、根拠を明確にして表現している。c:当時の新聞などから世論の動向を読み取ったり、様々な人々の議論について考察したりして、課題を主体的に追究しようとしている。	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	発問評価 授業態度
3	2 軍部の台頭	①日本の対外政策の推移について、世界情勢や軍部の政治的進出に着目して、政党内閣の崩壊や国際的孤立の過程について理解する。 ②恐慌から脱出し、国家主義が高揚する中で、五・一五事件から二・二六事件にかけて、軍部の影響力が増大していく過程を考察する。	a:政治・経済体制の変化に着目して、満洲事変に際しての世論や軍部の直接行動に関連する諸資料から情報を読み取り、軍部の台頭と対外政策について理解している。b:当時の社会が抱えた矛盾と満洲事変などの対外政策、国内での軍部の政治的進出などの諸事象を相互に関連づけて多面的・多角的に考察し、表現し	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	発問評価 授業態度

※令和４年度以降入学生用

			ている。 満洲事変や国内の国家改造運動の展開を考察することを通じて、軍部の政治的台頭がもたらした課題を主体的に追究しようとしている。			
3	3 第二次世界大戦	①日中戦争の勃発から太平洋戦争の突入に至る過程について、国民生活の変化や諸統制に着目して全体主義的な国家体制の進展を考察する。 ②第二次世界大戦について、国家間の相違や総力戦の特色を踏まえ、この戦争が空前の惨禍をもたらした点に着目して、平和で民主的な国際社会の実現に努める重要性を認識する。	a:戦争の推移と国民生活への影響などに着目して、戦争の長期化と欧米諸国との外交関係に関わる諸資料から情報を読み取り、戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開について理解している。b:戦争がアメリカやイギリスなどとの戦争に拡大した理由や、日本における全体主義的な国家体制の進展について多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現している。c:日中戦争から太平洋戦争に至る過程や日本政府の対応を考察することを通じて、第二次世界大戦期の国際関係について主体的に課題を追究しようとしている。	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	発問評価 授業態度
3	1 占領と改革	①戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策および戦後の民主化政策とそれにともなう諸改革について、その経過と内容を理解する。 ②戦後政治の動きを踏まえて、集大成となる日本国憲法制定の意義を考察する。	a:第二次大戦前後の政治や社会の類似と相違などに着目して、戦後の諸改革の内容と日本国憲法の制定に関わる諸資料を読み取り、占領政策と諸改革について理解している。 b:戦後の諸改革が連合国の対日占領政策にもとづくとともに、戦争に対する日本国民の反省に支えられつつ実施されたことについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 c:現代の日本との関係性を踏まえながら、占領期における諸改革が生み出した成果と課	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	発問評価 授業態度

※令和４年度以降入学生用

			題について、主体的に追究しようとしている。			
3	2 冷戦の開始と講和	①東アジア情勢の変化を踏まえ、連合国による占領が終結して日本が独立した意義を考える。 ②連合国による日本占領の終結と、その後の日米関係の継続について、様々な国の立場から考察する。	a:占領政策の転換による日本の政治や経済の変化に関わる諸資料から情報を読み取り、サンフランシスコ平和条約の調印による日本の主権回復の意義について理解している。b:地域社会の変容にも留意しながら、占領の前後の社会や思想・文化などを比較・考察し、その結果を根拠を明確にして表現している。c:連合国による日本占領機構の特色やその目的を考察することを通じて、戦後改革がどのような社会の枠組みを形成したのか、主体的に課題を追究しようとしている。	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	発問評価 授業態度
3	1 55年体制	①独立後の日本国内政治について、衆議院を保守・革新の二大勢力が占める 55 年体制の成立から安定した保守政権となるまでの経過を理解する。 ②冷戦構造の中で日本が国際社会に復帰したことについて、日本の国際連合への加盟、アメリカ・中華人民共和国・大韓民国との関係に着目して、独立回復後の日本の動きを考察する。	a:保守合同による自由民主党の成立から、経済成長を背景とする安定した保守政権の誕生に至る経緯について諸資料から情報を読み取り、外交・政治・経済を踏まえて理解している。 b:日ソ共同宣言をはじめとする国交交渉と国際連合への加盟、新安保条約・ＬＴ貿易・日韓基本条約・沖縄返還問題などの外交事案がもたらした課題を多面的・多角的に考察し、表現している。c:55年体制の歴史的意義や、1960年代における保守政権の安定化を考察することを通じて、独立後の国内政治について主体的に課題を見出そうと	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	発問評価 授業態度

※令和４年度以降入学生用

			している。			
3	2 経済復興から高度経済成長へ	①朝鮮特需による経済復興とその後の高度経済成長について、経済の国際化と国内の技術革新などの側面に着目して考察する。 ②消費革命による社会の変貌と、経済成長がもたらしたひずみである社会問題について理解する。	a:冷戦やグローバル化の進展の影響などに着目して、戦後の日本経済の成長や高度成長期の国民生活や地域社会の変化に関わる諸資料から情報を読み取っている。b:日本の経済復興や高度成長を国際関係から関連づけたり、様々な社会問題の発生について多面的・多角的に考察したりして、その結果を表現している。c:高度経済成長がもたらした国内的・国際的な日本の変化を踏まえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見出そうとしている。	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	発問評価 授業態度
3	1 経済大国への道	①ドル＝ショックや石油危機を踏まえて、主要先進国首脳会議が開かれた意義を理解する。 ②高度成長が終焉し、保守政権が動揺する中、２度にわたる石油危機を乗り越え、経済大国としての道を歩み始めた日本の状況を多面的・多角的に考察する。	a:ドル＝ショックや石油危機による世界経済の混乱に対応するため主要先進国首脳会議が開かれる一方、日本は石油危機を乗り越えて経済大国となったことを理解している。b:日本が石油危機を乗り越えて経済大国となった要因について多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。c:第二次世界大戦後の日本の国際社会における様々な取り組みについて、課題を主体的に追究しようとしている。	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	発問評価 授業態度
3	2 冷戦の	①冷戦体制の終結とそれに関わる国内の状況について、日本の政治・外交・経済・生活文化面を踏ま	a:冷戦終結後の国際関係、55年体制が崩壊した政治状況、バブル経済から平成不況へと	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	発問評価 授業態度

※令和４年度以降入学生用

	終結と日本社会の変容	えて多面的・多角的にとらえる。 ②科学技術・産業の発達によって派生する環境問題やエネルギー問題などの日本の課題とそれに対する日本の役割を認識する。	進んだ経済状況などについて理解している。b:国連平和維持活動への対応や経済不況に対する国内改革など、冷戦終結後の日本が抱える課題について多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。c:冷戦終結後の国際社会において日本がどのような役割を果たしてきたのか、自ら課題を見出して主体的に追究しようとしている。			
3	様々な災害と日本	①災害を題材に、諸資料から情報を読み取って考察し、それを表現する方法を学ぶ。 ②事例を参考に、自ら適切な主題を設定して歴史を探究し、表現する。	a:過去の災害に関する諸資料を読み解いて得られた情報をもとに、現代日本の課題の形成に関わる歴史を理解している。b:去の災害に関する諸資料と、既習知識と結びつけて多面的・多角的な考察し、表現している。自ら主題を的確に設定し、資料を適切に解釈したうえで複数の解釈を比較・検討・選択し、充分な論理展開で叙述・表現している。	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	発問評価 授業態度

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度